

木津川市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会 会議経過要旨

会 議 名		第 3 回木津川市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会		
日 時		平成 27 年 8 月 27 日（木） 午前 10 時～正午	場 所	木津川市役所 5 階 全員協議会室
出 席 者	委 員	【第 1 号】 ■福本 桂子委員、                    ■山川 博一委員 【第 2 号】 ■真山 達志委員(会長)、                    ■今里 佳奈子委員(副会長) 【第 3 号】 ■市川 浩之委員、                    ■中村 香苗委員、                    □川森 昌代委員、 □北島 宣委員、                    ■本多 浩治委員、                    ■中島 浩之委員、 □久保田 文子委員、                    □七條 歩委員、                    ■佐脇 貞憲委員、 □西村 正子委員、                    ■三上 かず子委員、                    ■加藤 千景委員、 ■梅本 好成委員、                    □佐藤 啓子委員、                    □大倉 竹次委員、 ■湯瀬 敏之委員		
	そ の 他	(株)地域未来研究所 倉嶋 祐介		
	事 務 局	尾崎市長公室長、尾崎市長公室次長、廣岡学研企画課主幹、 茅早企画政策係長、佐々木企画政策係主任		
議 題	1. 開会 2. 議事 (1) 報告事項 ①ワークショップ協議結果について【資料 1】 (2) 協議事項 ①戦略の柱『子育て』にかかるキャッチフレーズについて【資料 2】 ②木津川市まち・ひと・しごと創生「人口ビジョン」「総合戦略」中間（案） について【資料 3】 (3) その他 ①今後のスケジュール及び次回委員会について 3. 閉会			
会 議 結 果 要 旨	1. 開会 事務局より開会を宣言した。  2. 議事 会議録の署名委員として市川委員を指名した。 (1) 報告事項 ①ワークショップ協議結果について 「資料 1 木津川市まち・ひと・しごと創生総合戦略に係る第 2 回ワー クショップ協議結果について」に基づき、ワークショップ協議結果につ			

	<p>いて報告した。</p> <p>(2) 協議事項</p> <p>①戦略の柱『子育て』にかかるキャッチフレーズについて</p> <p>「資料2 戦略の柱『子育て』にかかるキャッチフレーズについて」に基づき、総合戦略の柱となる『子育て』を表現するキャッチフレーズについて提出された案やその思い・意味などを基に意見交換を行い、委員会での多数意見を事務局にてとりまとめたうえで、本部会議にて最終決定を確認した。</p> <p>②木津川市まち・ひと・しごと創生「人口ビジョン」「総合戦略」中間（案）について</p> <p>「資料3 木津川市版 まち・ひと・しごと創生「人口ビジョン」と「総合戦略」概要版」に基づき、人口ビジョンが示す中長期展望や総合戦略の目標や施策について意見交換を行い、確認した。</p> <p>3. その他</p> <p>①次回推進委員会の日程について</p> <p>10月27日（火）午後3時から、開催することとした。</p> <p>4. 閉会</p>
<p>会議経過 要旨</p> <p>◎会長 ○委員 →事務局</p>	<p>1. 開会</p> <p>会議結果要旨のとおり。</p> <p>2. 議事</p> <p>(1) 報告事項</p> <p>①ワークショップ協議結果について</p> <p>【主な意見・質疑等】（○…質疑・意見、→…質疑・意見に対する返答）</p> <p>○委員の皆様は出席されていたのか。印象など伺いたい。</p> <p>→出席頂いた委員もおられる。</p> <p>○ざっくばらんな広い議論ができた。事務局がまとめるのに苦労したのでは。</p> <p>○婚活に関することで、災害時に命の危険を感じる事が、結婚・出産につながるというのは、斬新な発想だと思った。</p> <p>○参加者の思いの丈が出ていたような気がした。自分のグループでは、</p>

観光PRで「ナンバーワンよりオンリーワン」をということで、恭仁京ブランドで統一して特産品を作れないか。という意見が出ていた。

- ◎戦略の柱『子育て』を意識していただいたのかどうかは分からないが、そのようなアイデアがたくさん含まれているように感じる。戦略にも具体的に盛り込んでいけるのではないかな。
- 個人的には、「田舎すぎず都会すぎず調度良い」ということは、特色がないと捉えられるが、それも住みやすさの面では良いのかもしれない。

## (2) 協議事項

### ①戦略の柱『子育て』にかかるキャッチフレーズについて

【主な意見・質疑等】(○…質疑・意見、→…質疑・意見に対する返答)

- ◎例えば、1番目は比較的従来の総合計画などにあるような案であり、2番目は、ある意味新しい発想のもとに提案されている。1つに絞り込むのは難しいが、全体を通じて感想や意見を頂きたい。本委員会としては、複数案に絞込み、庁内検討等も含めて最終案を決定頂ければと思う。

○キャッチフレーズなので、覚えやすい、語呂が良い、印象に残るものがベストではと考える。サブタイトルで意味合いをきっちりと説明できれば良いのではないかな。

○戦略の柱としての『子育て』は承知しているが、市民の中にはあまり縁が無い方もおられる。自分には関係ないと思われるのもったいないので、そのような方にも受け入れやすいものが良いと思う。

- ◎キャッチフレーズなので、イメージがわきやすく覚えやすいものが良いと思う。『子育て』にこだわり過ぎず、すべての市民に関わるものであることがわかるような表現にするべきである。サブタイトルをつけるというやり方も良いと思う。

○宿題時点では、『子育て』に関するキャッチフレーズとのことであったが、たくさんのアイデアが出てきて嬉しい。このキャッチフレーズが戦略の唯一のキャッチフレーズとなるのか、他の基本目標にもキャッチフレーズがあるのか、お教え頂きたい。

→戦略では6つの基本目標を示しているが、全て子育てという1本の柱にかかっている。

○キャッチフレーズは、戦略で示されている姿勢と齟齬がないように頂きたい。地元大学との連携など、「子育て支援」だけでは包括できない分野もあるだろう。そこで、「子育て支援」という文言が出てくると、子育てに直接関わりのない周囲の人にも関係があるという印象で良いのではないかと考える。

◎あまり「子育て支援」だけを全面に出し過ぎると、総合戦略がそれだけのものであるという印象を与えかねない。目指すまちの全体像を示すキャッチフレーズの方が良いのかと思う。

意見をまとめると、例えば14番のような例（「今でしょう子育てを木津川でするのは！」）ではピンポイントすぎるきらいもあり、全体のキャッチフレーズとしてはマッチしないかもしれない。そのように選んでいくと、まち全体の方向性や特色として大きな捉え方ができる表現を中心に選んでいくことがひとつの基準になるのではないかと考える。

○いくつか組み合わせるということも考えられ、また、主タイトルは総合戦略であるが、サブタイトルとして案の中から選ぶということも考えられる。

◎22番（かあさん、とうさん、笑顔のまち キッズ木津川）、23番（かあさん笑顔、とうさん安心、キッズ木津川）あたりでは、ひとり親世帯も多い世の中で気になる人には気になるのではないかと考える。その辺りにも配慮が必要だと思ふ。

○そういう意味では、4番（親子でずっと住み続けたいまち「木津川市」）や6番（結婚・出産・家族 いつまでも住み続けたいまち・木津川市）等は、親子関係に限定されてしまう。

○家族のあり方が多様化する中で、「家族」という言葉の使用を考え直さなければならない。京都府でも、「家族揃って…」という表現は極力使わないようにしている。

○正直なところ、考えるときに、「子育て」や「教育」及び「食育」というワードが出てきたが、ピンとくるものが無かった。子どもを中心としながらも、まち全体をつくる戦略だと思うので、「子育て」という表現は控えめにした方がいいように思う。

○「子育て」という言葉を全面に出さなくても、地域の絆や交流があるま

ちという意味合いの表現を入れていけば、それが子育てや老人とのふれあいに繋がっていくのではないかと考える。

○子育てという柱でテーマを考えると非常に難しい。10年前と今では世の母親達の考えも変化している。

「子育て」は家族だけではなく、地域・まちがあつての子育てだと感じている。皆さんの力を借りて子育てすることで、子どもの心が育っていく。それによって親も育っていく。

このまちで育ってよかった。育てられて良かった。一旦、まちを出てもいつか戻ってきたい。というイメージを持ち続けて欲しい。ふるさとに対する温かいイメージを入れていきたい。

◎中間案を検討した後の方がキャッチフレーズも検討しやすいと思うので、一旦議論を先へ進みたい。それを踏まえてキャッチフレーズの議論へ戻りたい。

## (2) 協議事項

### ②木津川市まち・ひと・しごと創生「人口ビジョン」「総合戦略」中間（案）について

【主な意見・質疑等】（○…質疑・意見、→…質疑・意見に対する返答）

◎子育てしやすいまちづくり、子どもが育ちやすいまちの実現に注力しましょうというのがこの5年間の特色である。それ以外のことをやらないということではなく、成果指標は、幅広く設定されており、その中で特に子育てに関する指標として【子育て未来 - KPI】が設定されている。子どもたちを中心とした施策に重点的に取り組み、検証していくために独自の指標を設けたものである。

戦略は全国の自治体どこもが作っているが、この部分は木津川市オリジナルで他には無いものだと思う。

また、仮にこのような枠組みで進めていくとすれば、キャッチフレーズがどうあるべきかについても考えて頂きたい。

○私は国際交流協会に携わってきている。子育てはあらゆる基本目標の中に入るという説明だと認識している。

17年前からサンタモニカ市と交流しており、これまで累計約180名の中学生をサンタモニカに派遣している。この成果を踏まえ、木津川市の子育ての集大成のひとつとして、「国際交流」を入れてはどうか。派遣された学生はその後、協会の派遣・交流事業の手伝いもして頂く等、人材

育成の面でも貢献頂いている。この学生たちがいつの日か木津川市政にも役立てればと考えている。

◎子どもたちのグローバル化等を支援できれば、子育てのまちとしては非常に魅力的である。そのような環境が整っているまちの方が、居住地の選択肢に入ってくるのではないか。市には同志社インターナショナルスクールもあり、既に一定の環境はある。グローバル化を施策に位置づけても良いのではないか。

【地元大学との連携】における地元大学とは、京都大学農学部を指すので、「地元」と限定してしまうと農学部に限定される。もう少し他の視点、例えば【教育機関との連携】とする方が、施策の広がりを感じられるので、大学にこだわらなくても良いのではないか。

○外との交流の話があったが、地域の中での交流も魅力のひとつである。ワークショップでもあったが、木津川市は田舎ではなく都会でもない。生活面を考えればもっと都会に住むという選択肢もある。しかし農村部や里山があり、和束町や笠置町や京都府唯一の村である南山城村もあり、この地域の中で交流することが、子どもたちにとってメリットがあると感じて木津川市での子育てを選択している人もいる。キャッチフレーズについても、子育てを全面に押し出すのではなく、地域の環境や人、魅力を表現できればと思う。

○基本目標1の【子育て未来 - KPI】は、学校給食が指標となっている。共働き世代も多いなか、子育て環境の整備について企業が取り組むことは非常に重要である。市として独自の指標を掲げられないか。  
→子育てサポート企業は、認定を頂いている企業もあり、成果指標としての採用も検討した。1指標ずつの採用ということで、学校給食としていたが、ご意見を踏まえ、本編のKPIとして、追加での採用を検討させて頂く。

◎学校給食における市内産野菜の利用率も重要であるが、例えば【保育・子育てを支援するサービスに対する満足度】といったような他の指標と比較するとかなり具体的であり、指標間のアンバランスもある。子育てサポートをしている企業数等のほうがまだ抽象度が高い気もする。構成は、基本目標があり、子育てに関する施策目標や成果が特色として出されていて、それを受けて具体的に色んな取組みを示すという三段構成である。とりわけ、市の特色を出すのが、子育てに関する施策目標である。しかし、先ほどの国際交流の話もあり、子育てと言い切ってしまう

	<p>うと範囲が狭い。例にもある子育てという言葉ならば、子どもを親も支えるが地域も支えるというイメージである。</p> <p>概ねこのような構成でまとめていくという形で特に異論が無いようであれば、了解頂きたい。また、先ほどの意見にあった国際交流やグローバル化支援を主要施策の中に盛り込み、【子育て未来 - KPI】についても再検討を頂ければと思う。</p> <p>以上のように、子どもがいきいきと育ち、親や地域が見守っていくまちをつくっていかうということが趣旨となるが、そのように考えた場合、キャッチフレーズとして適当なものはあるか。</p> <p>【子育て未来 - KPI】という名称から、1 番の案が想像できる。ある種平凡・無難な案だが、みなさんの強い意見があれば、平凡でないものが選ばれる可能性が出てくる。</p> <p>26 番（「人と緑とエネルギーを育むまち」）は、今回の戦略の特色は伝わらないが、想い・意味などの部分では、非常に的を射た重要なものと感じる。</p> <p>○「子育て」という柱を決めているので、フレーズから消えてしまうと、わからないのでは。</p> <p>○3 番（ええとこやん。木津川市（キッズがわし））や 24 番（みーんなで子育て キッズ木津川市）にあるように、「キッズ」という言葉を入れてはどうか。</p> <p>○「子どもたちの未来が輝く」という文言を残すのであれば、26 番（人と緑とエネルギーを育むまち）との組み合わせでもキャッチフレーズとして成り立つ。人を育むということがまさしく子育てであるので、26 番そのままでも意味は通じるのではないか。</p> <p>また、「人と緑とエネルギー」は「ひと」と平仮名の方が良いように思う。</p> <p>○現状案では、多くの人に興味を持って頂くには弱いと思う。もっとインパクトが欲しい。気持ちが伝わってこない。「まちへの愛」などといった強い表現があってもいいのかもしれない。</p> <p>○「マチオモイ」という言葉を使うつもりはないのか。</p> <p>→提案があれば参考にさせて頂きたい。</p> <p>◎皆さんの意見を集約したうえで、候補としていくつか選択し、最終的に決めたい。委員会としての候補を決めるため、選考表に 3 つ程度選択い</p>
--	---

	<p>ただき、また改善点なども合わせて記述頂きたい。事務局から、この集計について、扱いについて説明を願う。</p> <p>→事務局で一旦預かり、集計した上で皆様に再度お知らせさせて頂く。</p> <p>◎事務局で委員会としての多数意見と修正意見をまとめたうえで、最終案を絞るということにしたい。</p> <p>総合戦略の（案）についても修正意見が出されたので、それを踏まえて事務局の方で検討して頂きたい。</p> <p>→地方創生先行型交付金の上乗せ分が創設され、そのためには 10 月末までに戦略を取りまとめる必要がある。</p> <p>本日の意見を踏まえ、会長と相談させて頂いたうえで案を取りまとめ、来月の 7 日からパブリックコメントを実施させていただき、内容の反映について、次回の委員会で報告させていただきたいと考えている。</p> <p>委員会としての多数意見についてはお知らせする。意見を踏まえ、本部会議に諮って最終決定をしたい。</p> <p><b>3. その他</b></p> <p>①次回推進委員会の日程について 会議結果要旨のとおり。</p> <p><b>4. 閉会</b></p>
その他の特記事項	傍聴者 1 名